

◇村 田 薫 君

○議長（高橋 猛君） 次に、5番、村田 薫君の一般質問を許可いたします。村田 薫君、登壇願います。

（5番 村田 薫君 登壇）

○5番（村田 薫君） おはようございます。通告に従いまして一般質問を行います。

質問事項は、親向けに「婚活本」の作製と配布をという事項でございます。

質問要旨ですが、世間話や何かの集まりがあると子供や孫にまだ嫁または婿がいなくて困っている、誰かよい人はいないものか、生きているうちに何とかしてやりたいといった話題が必ず出てきます。あきた結婚支援センター長のお話では、毎日親からセンターへ、親が年をとっていくのに子供は結婚に無関心で、親から何回も切り出せず、どうしたらよいのか。または、家族で話が盛り上がり困っているという相談が寄せられているとのことでした。日常的に結婚適齢期の20歳から40歳ぐらいまでの子供や孫を持つ親や祖父母にとり、頭の痛い問題であると思います。結婚を希望する男女の出会いや支援などについては、支援センターのほうで参加者同士の顔が見え過ぎないように広域に行っていることは非常によいことであると思っております。私は、独身の子供を持つ親が家族同士で話し合いをするきっかけになる手本や、いまだに家柄などに偏見を持っていることなどを取り払い、適齢期の子供の結婚を高揚させる手引き的なものが必要であると思っております。本町では支援センターとは別な角度で最新の結婚事情を親の世代にも理解してもらうことに狙いをつけた親向けの婚活本を作製することを提案するものですが、どうお思いでしょうか。

最近、国の有識者でつくる日本創成会議の人口減少問題検討分科会からの報告によりますと、2040年、あと25年ぐらい後には子供を産める若年女性が半数以下になり、人口減少で行政機能が成り立たず消滅する自治体が全国で896に上り、このリストの中に美郷町も入っておりました。「消滅」という言葉は住民には大変ショックな言葉であります。消滅しないための取り組みを重ねることで地域崩壊を妨げなければと強く思っております。

ほかの自治体に前例はありませんが、早々に結婚を希望する独身男女への情報発信だけではなく、親向けに子供の結婚情報発信を本格的にしていく考えはないのでしょうか。親向けの婚活本を小冊子形式で作成し、無料で地域のコミュニティセンター、飲食店、コンビニ、人の集まるジャズコンサートなどイベント会場に出向いて繰り返し緻密に配布して、ひいては町全体で真剣に取り組んでいくべきと思いますが、町長の考えを伺います。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

(町長 松田知己君 登壇)

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

初めに、これまでの美郷町の結婚支援に関する取り組みについてご説明いたします。

町では、結婚支援の一環として平成17年度から19年度にかけて出会いの場創出事業として婚活に関するイベントを実施したことは議員もご承知のとおりです。しかしながら、登録者数、とりわけ女性の登録者が少なかったことなどから町単独での事業継続は困難となり、この事業を取りやめた経緯があります。議員ご指摘のように登録者や事業参加者同士の顔が見え過ぎるということがあったのかもしれないと考えております。こうした経緯を踏まえ、町では県に対して結婚支援は単独市町村の取り組みでなく、より広域的な取り組みが必要である旨要望してまいりましたが、こうした各地からの要望を踏まえた上で県は平成23年度あきた結婚支援センターを設立し、出会いにつながるイベントの情報発信や結婚相談などを行っているところです。

その登録会員数は、ことし4月末現在で2,027名となっており、成婚報告者数も平成24年度で142名、平成25年度で188名と年々増加傾向である旨報告をいただいております。町としては今後ともPRに努め、成果につなげていきたいと存じます。

さて、議員ご提案の親向けの婚活本ですが、いわゆる婚活本については、それをテーマにテレビ放映もあったように多数の本が市販されております。その読者対象は基本的に結婚を望む方々となっておりますが、その本を拾い読みいたしますと親のかかわりをマイナス意識で捉えている本も散見され、多様な価値観を実感するところです。こうしたいわゆる婚活本ではなく、結婚に関する情報提供という観点では議員ご質問のように最新の結婚事情を親世代に理解してもらうため、未婚や晩婚化のデータや背景を説明しながら結婚支援策の取り組みなどを紹介する情報誌的な冊子を、県レベルで発行しようとする県が四国地方にあると伺っております。こうした取り組みは価値観の多様化を背景にした結婚問題の難しさを踏まえるとともに私どものかつての取り組み実績も踏まえますと、やはり広い範囲で取り組むことが効果的と考えられますので、美郷町としては単独で実施することは考えておりません。

一方、市販されている婚活本については結婚希望者向けとはいうものの、親にとってもこの問題に対する重要な情報把握になるものと存じますので、親と子が話し合うきっかけとしてご自分の価値観に合う本などを見つけ、それを参考にしながら話し合うことも意義あることではないかと考えております。

なお、議員ご指摘のとおり結婚問題は結果的に人口問題に直結しますが、さきの衝撃的な日本創成会議の試算発表を踏まえ、先日役場内に人口減少に関するプロジェクトを立ち上げ、これま

での取り組みに加え、新たな取り組みの可能性などについて、今後一定時間をかけて議論することとしております。以上です。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。

はい、再質問を許可します。

○5番（村田 薫君） 再質問ではありませんが、最後に結びといたしまして、まず町でも大変真剣に取り組んでいるということは実感いたしました。私たち議員の中でも少子化について真剣に取り組んでおりまして、本町としてもかなり前向きな姿勢を評価させていただいて、これからも一生懸命取り組んでいきますということで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（高橋 猛君） これで、5番、村田 薫君の一般質問を終わります。